



理学研究科セミナー

脊椎動物付属肢の骨の形態形成

田村 宏治 博士

東北大学大学院生命科学研究科 教授

日時：2025 年 11 月 21 日（金）16:00～17:30

場所：本部棟 201 室

進化発生学（Evolutionary Developmental Biology, 通称エボデボ研究）という研究分野に足を踏み入れて、25 年以上の長い年月が経ちました。もともとは形態形成メカニズムの保存性や法則性に興味をい দিয়ে研究を始めましたが、ひょんなことから魚類・両生類・は虫類・鳥類・哺乳類の胚を用いた研究をすることになり、形態が作られる発生過程を種間比較するようになりました。形態形成メカニズムの動物間の共通性と差異を調べ、比較した種を系統順に並べることで、共通の形態形成メカニズムがどのように変化することで形態の差異が進化してきたかを推定する。このようなやり方のエボデボ研究にけっこう多くの学生たちが興味を持ち、各々が面白いと思う現象について研究をしてきました。

付属肢の位置を制限すると同時にその多様性を可能にする competent stripe の研究、指を作る細胞の由来を比較することで鳥類の指の identity を同定する研究、鳥エンハンサーの発見、などいくつかのエボデボ研究史をご紹介したうえで、現在の研究室メンバーが手掛けている研究についてお話しさせていただきます。とくに、二人の大学院生がそれぞれ単独で進めている「1 本の骨の形態形成」についてご紹介し、「何を解きたいか？」を考えることの面白さと重要性について議論を交わせれば幸いです。

学部生、院生、教職員の皆様の多数のご参加をお待ちしております。



岩波書店/田村宏治（著）
「進化の謎をとく発生学—恐竜も鳥エンハンサーを使っていたか」

問合せ：生体情報学Ⅰ講座 城所 ☒ hkidokoro@sci.u-hyogo.ac.jp